

【公開講座】



いのちの終わりを 見つめ合う ～いのちのケア～ シンポジウム

釈迦涅槃図 (制作年不詳・作者不詳) by Google art project.

【解説】涅槃図には多くの菩薩や弟子、善男善女、動物などが描かれている。釈迦（Buddha）八十歳の年、生まれ故郷へ向かう途上、クシナガラ河のほとり、羅双樹のもとで入滅された。まわりの者たちに、自らの亡き後は「ただ、自らをよりどころとし、真理をよりどころとせよ（自燈明法燈明）」と説いたといわれる。その受様は「涅槃経」に記され後世に伝わる。涅槃（梵 nirvana）とは「吹き消す」「消滅する」という意味で、すべての煩惱が滅し悟りを成就させる境地を指す。

主催者ごあいさつ

浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」北海道教区委員会委員長
浄土真宗本願寺派北海道教区教務所長

中尾 了信

浄土真宗本願寺派(西本願寺)では、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献するという目的のもと、「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」を展開しております。この北海道教区におきましても、社会会が担当し、標記シンポジウムを開催いたします。

この度は第4回をむかえ、『いのちのケア』と題し、真宗大谷派の僧侶であり、岐阜県大垣市で臨床宗教師在駐のホスピス型協同住宅を運営する沼口医院の院長 沼口 諭 さん、「市民と共に創るホスピスケアの会」の副代表理事である 山田富美子 さんをお迎えいたします。

平均寿命が延び高齢化が進み、老いや病への不安や死への恐怖はますます増大する現代において、患者の一人ではなく、認められた一人の人間として心安らかに、それこそ豊かな心でこの世でいのちを終えていただくため、医療現場でのご努力や、家族や医療関係スタッフにとどまらず社会におけるサポート体制や制度改革への働きかけについてご講演いただきます。

僧侶・門信徒の方々はもちろんのこと、宗教者、地域住民のみなさん、ご関心を持たれる多くの方のご参加をお待ちしております。



沼口 諭

(岐阜県大垣市沼口医院院長、
真宗大谷派僧侶)



山田富美子

(NPO 法人「市民と共に創る
ホスピスケアの会」副代表理事)



【事前申込みにご協力下さい】

当日は公開講座(入場無料)となっています。皆様のご参加を歓迎いたします。ただし、会場の座席数に限りがございますので、事前にお申し込みをいただければ大変助かります。お申し込みはお電話、FAX、Eメール等でお知らせ下さい。境内の駐車場も台数が限られております。来場の際は最寄りの公共交通機関をご利用いただきますようお願い申し上げます。



【お問い合わせ・事前申込先】

〒060-0003 札幌市中央区北3条西19丁目2-1 本願寺札幌別院内
■TEL 011-611-9623 ■FAX 011-612-0914
■Eメール hokkaidokyomusho@cello.ocn.ne.jp



【アクセス】●京バス(北5条線) 北5条西20丁下車 徒歩1分
●地下鉄東西線西18丁目駅下車 徒歩8分